

岡崎城跡天守台石垣 発掘調査公開中!!

~ 目指せ、天守台石垣の基礎構造解明! ~



2018
8/20〔月〕
9/14〔金〕

調査は平日のみ。雨天中止。
調査状況により期間の変更あり。

天守台石垣（南面）：城内で最も古い段階の石垣

現地説明会 9 / 8〔土〕

11:00 / 13:00

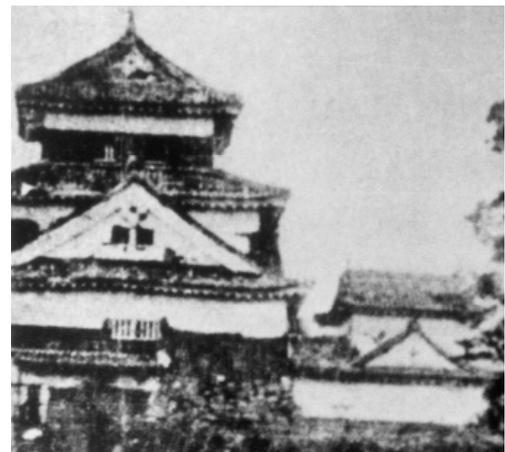
現場公開 10:00 ~ 14:00 直接現地 [岡崎城天守](#)へ。

荒天中止（HP 掲載）。



「天守」及び「天守台石垣」

城の象徴である天守(天主、殿主、殿守などとも)は天正7(1579)年の安土城天主が日本で初めての大規模天守とされています。天守は天守台と呼ばれる土塁や石垣の高台の上に築かれています。すべての城に天守があったわけではなく、天守台は築いたものの天守は築かれなかった城、そもそも天守台すらない城、災害で天守が失われ再建されなかった城など、天守を持たない城も多くありました。また元和元(1615)年の武家諸法度により、天守は再建を除き原則的には新造されることがなくなると、やや大きめの三重櫓を建てて天守の代用とすることがありました。なお、「天守閣」という言葉は明治時代前後に使われた俗称です。建築学の学術用語では「天守」が用いられています。



古写真にみる天守・井戸櫓(南から)

岡崎城の「天守」及び「天守台」

天正18(1590)年に岡崎城主となった田中吉政は、城郭拡張と城下町建設を進めます。その中で天守(初代)及び石垣の天守台の造営を行いました。しかしこの天守は地震による倒壊があり、元和3(1617)年に再建(2代目天守)されたと考えられています。また2代目天守の築造の際に天守の2方向に付櫓を設ける複合式の天守となりました。この2代目天守は明治初期の古写真に写るが、廃城令により取壊しを受けました。現在の天守は昭和34年に鉄筋コンクリート造で復興されたものです(3代目天守)。



天守復興前の天守台石垣(南東から)

天守台石垣については、石材に自然石のみを用いたもので、隅角部は算木積が未発達な段階であることから、田中吉政により築かれた初代天守の天守台といえ、城内で最も古い段階の石垣といえます。この天守台に2・3代目の天守が築造されています。

天守台石垣の発掘調査

現状の天守台石垣は南面の最高所で高さ7.4mを測ります。一方、明和7(1770)年の「書上文書」(城主が松平氏から本多氏に交代する際の引継書)には「本城石垣高さ平地より四間五尺」と記されており、現在の高さに換算すると約8.8mの高さがあったこととなります。単純計算で現在の地面より下に1.4m分の石垣が埋まっていることとなります。

天守台石垣の本来の高さや、石垣基礎(根石)の構造がどのようなものなのかを発掘調査で明らかにすることを今回の調査の目的としています。

発掘調査現場の公開

発掘調査状況を随時公開しています。フェンスの外から発掘調査状況をご覧ください。危険ですので、フェンスの中には入らないようお願いいたします。(中に入れるのは現地説明会時のみとなります。)発掘調査期間中はご迷惑をおかけしますが、調査への御理解と御協力のほどお願いいたします。

HPにて岡崎城跡に関する情報を発信中!



過去の発掘調査関係



岡崎城跡整備計画
石垣マップ等